

## 平成28年度「地域における青少年の居場所づくりシンポジウム」(概要)

## 1 日時

平成29年3月27日 9時30分～12時

## 2 場所

大阪市役所 地下1階 第11共通会議室

## 3 出席者

有識者 4名

事務局 4名

区長・区職員・地域関係者 31名

## 4 第1部 各区活動報告(9:45～10:45)

## (1) 淀川区活動報告(淀川区市民協働課・地域関係者)

## 【地域関係者よりの報告】

- ・10月23日に森栗教授の講演会を聞き、アンケートに「新東三国小学校で宿題カフェをしたい」と書いたことから始まった。
- ・居場所がない、大人と関わりがない子どもが多いことは前から気づいていたが、今までやってきたのは日時が決まったイベント型であり、疑問に思っていた。
- ・校長先生、教頭先生に講演会のことを話し相談。小学校として地域に望んでいることを聞くと、個々の居場所、相談相手がいつもいるようにすることが大事とのこと。
- ・冬休みに「いきいき」を利用し、「宿題カフェ」を実施。大阪大学の大学生に参加してもらい、宿題を教えてもらったり、遊んでもらったり、子ども全員と関わってもらった。
- ・事前に森栗先生から学校に丁寧に説明していただいた。「いきいき」の先生より阪大生のことを子どもに丁寧に説明するとともにコミュニケーションをとる時間を設けた。  
→外部との協働は、丁寧な打ち合わせ、入り方をしっかり行うことで成功した。
- ・子どもたちの居場所では、子どもにできることをつくってあげることが大事。
- ・反省点は、大学生が不安に思っていたため、子どもたちは喜んで迎えてくれると、大学生に丁寧に事前に伝えておけばよかった。
- ・宿題カフェ後は、地域と学校で図書館を使って、となりの部屋も学習センター機能を備えた第2図書館として使用し、安心して学べる居場所をつくることで学校協議会、地活協で計画中、できることから実現していきたい。

### 【区職員よりの報告】

- ・ 3地域で子ども宿題広場を展開。どの地域も森栗先生の講演会を聞いて始まったが、自分たちのできることは何かと以前から考えていたこと、それぞれの地域で違う内容でできることを行っている。区役所主導ではできなかった。

### (2) 生野区活動報告（生野区役所地域まちづくり課・地域関係者）

#### 【区職員よりの報告】

- ・ ワークショップを開催。
- ・ 実際に居場所づくりを検討するチーム作りが必要だったので、ワークショップへはグループで参加してもらい、当日はグループ討議も行った。
- ・ 4グループが居場所づくりを検討、次のワークショップで、不安に思っていることや困っていることを出してもらい、有識者と一緒に解消していく。
- ・ いくすく子ネクト→活動については後程報告。  
舎利寺地域→冬休みに子ども食堂実施。4月からは月1回開催する予定。  
巽南地域→おにぎりパーティーを3月に2回実施。今後は寺子屋をやりたい。  
東小路地域→今までは地域住民が誰でも相談できる「おはなし広場」として実施。子どもの参加はなかったが、今後は世代を超えたつながりをめざした交流の場としたい。
- ・ 区役所が主導で行うと自由にできない。また区のサポートがなくなると続かなくなる恐れがあるため、自由にやっていただいたほうが、やらされている感がない。この4地域も自立して継続していけると思うので、期待している。

#### 【地域関係者よりの報告】

- ・ いくすく子ネクトについて。  
生野区まちづくりセンターが毎月開催している「まちカフェ」で出会った育児をするママたちが結成した楽しい子育て応援チーム。
- ・ いろんな交流が生まれるイベントを開催している。
- ・ 平成29年2月11日「まちカフェフォーラム」（主催：まちづくりセンター）にて、お披露目イベントを開催。

### (3) 天王寺区活動報告（天王寺区役所市民協働課・大阪大学招聘教員）

#### 【区職員よりの報告】

- ・ 地域福祉アクションプラン→高齢班、障がい班、子育て班、それぞれ地域と連携。
- ・ 見守りが必要な家庭のこどもの居場所をどうするか？ということの有識者派遣を希望。
- ・ 天王寺区の特徴としては、他の区と比べ経済的にゆとりのある家庭が多く、地域の教育力も高い、

いきいきも子どもがたくさん来ている、子育て中の母への支援も充実しているが、天王寺区の課題として、そんな中でも支援が必要な子どもや家庭はあるはずだが表面にでてこない。

- ・有識者にいきいきや子ども・子育てプラザなどの区内施設の視察からはじめていただくことに。

#### 【大阪大学招聘教員（有識者助手）よりの報告】

- ・平成29年1月14日子ども・子育てプラザを視察。「おつかレーンジャー」（こども達で協力して決められた役割を主体的に果たし、カレーをつくり提供する取り組み）でのこどもの様子を確認。コミュニティボールを使った対話を行うと、知らない子同士の接点が見られ、関わりの場となっているので、発展させられるとよい。
- ・平成29年2月17日、天王寺区地域福祉アクションプラン子育て班会議において、地域のこどもの居場所づくりを行っている大人でも対話を実施。
- ・こども目線での居場所について→居場所がないと感じているこどもには、親にも学校の先生にも言えないことがある→第三者の存在が大事。
- ・居場所があるこどもにも、居場所がないと感じているこどもがいるのではないかと。多様性が許容されていない、学校のようなみんなと同じでなければいけない空間がこどもを支配している。こどもの多様性、居場所をこども目線で考えなければならない。

#### （４） 平野区活動報告（平野区役所政策推進課）

##### 【区職員よりの報告】

- ・平成28年7月25日、平成29年2月2日、有識者に相談、有識者の経験から助言を受ける。
- ・有識者の経験から、こども食堂の最大の問題は場所、人はそれなりに集まる。
- ・役所は次元の高いものをつくりたがるが、こどもの居場所づくりには誘引するツールが必要。
- ・平野区が進めている多世代交流も、貧困世帯の支援として重要。
- ・貧困の連鎖を生むこどもの多くは身近に大学生がおらず、大学生活を現実のものと考えてない。
- ・身近に高校生がいても中退が多く目標が見えず、数年後、十数年後の自分のイメージ想像のためにロールモデルとなる5～10歳上の人と接することが重要。
- ・有識者の話では、不登校の原因は3つあるとしている→発達障害、学力、怠学。
- ・有識者がこども食堂で関わっている他市では、行政支援を行っておらず補助金もなし。困っているのは広報。区は広報中心に支援すべき。
- ・これらの情報をもとに住み慣れた地域が主体となり「みんな食堂」を運営。区は開設や運営の相談、フードバンク事業者との連携を支援する「みんな食堂ネットワーク拠点事業」を行うこととし案を作成。同時に旧瓜破幼稚園では相談員が面談、交流などを行う「瓜破こども広場」を実施。
- ・平成28年11月から不登校相談支援事業→支援員2名を配置し生徒の居場所、保護者の相談場所としても行っている。

## 5 第2部 パネルディスカッション（11：00～11：55）

テーマ：「地域における青少年の居場所づくりをスタートして見えてきたこと」

- ・地域の方々が何か地域のこどものために役に立ちたいと言っている。
- ・居場所とは何か？例えば障がい、性的マイノリティなど、普段は隠れていたり、隠したりして居場所がないことも。
- ・居場所づくりは集団活動をする場になると多様性を隠されつづされる場所になってしまうことも。
- ・後押ししてあげる先生や地域の方の相談者が必要。そこで交流が生まれ活動の主体になり、地域の中で多様性に配慮した居場所が生まれるのではないか。
- ・何のためにするのが大事、物理的な提供だけでなく、色んな活動をする中で信頼関係が生まれ本音を話せることがある。そんな居場所が重要。こども食堂はそんな関係ができるその通り道で最終的にはこどもの不安などをシェアできる地域の場所になればいい。
- ・課題を抱える人や課題が見えない人の居場所づくりが重要。
- ・大人が何をしてあげたいかではなく、こどもが何をしたいのか、こどもが自分らしくいられることが大事。
- ・相談できる人・場所は重要だが場を設定するだけではだめ。
- ・こどもが自分の心を癒せる、この人なら癒してくれるという場所を作る力をつけなければならない、だから地域の人と力を合わせて作っていききたい。
- ・いろいろな自分を探せるチャンネルが必要。
- ・行政はネットワークのハブになってもらいたい。
- ・どんなアクセスポイントをつくるのか、ネットワークをつくるのも1つの方法。
- ・こどもにとって居心地のいい、安心できる、出番がある場所、出番を見つける力が大事で、それを見守る人が必要、みんながつながっていっしょにできたらよいと思う。

## 6 参加者アンケートより

- ・地域の主体的な活動が継続できるための支援、区役所の役割のあり方の整理が大切だと感じた。
- ・他区の取り組み、有識者の先生方の話を聞いたこと、役所が主導するのではなく、地域の「やる気がある人」をうまくコーディネートすること。
- ・居場所とは何か、居場所の多様性、継続性、いつでも開いていること等を改めて考えさせられた。
- ・区職員の「区が丸抱えすると自由がなくなる、サポートがなくなるとしなくなる、やらされた感」については本当にその通りだと思いました。いかにして、地域が主体的に取り組めるかがポイントだと思います。
- ・アクセスポイントは場所ではなく人である。多チャンネルがあることが大変有効。子供の出番を作ることがポイント等の意見は大変共感できた。